

# 「テレビ会議システムを利用した日本語教育の教材開発及びマニュアル作成」

留学生センター  
足立 祐子

A Study of Japanese Education Materials and Preparation of the Manuals on the Television Conference System

Yuko ADACHI (International Center)

In the International Center, a television conference system was used, and Japanese class was carried out. This paper reports the Japanese class by using the Television Conference System and shows the way of teaching Japanese as a communication. It found out the following thing after the class execution.

1. A distance was used, and the communication activities of both directions could be done.
2. the existence of the distance influences the motive that a communication is taken directly.

I want to propose the contents of a class which became satisfactory, as a future subject.

## Key words:

the television conference System, Japanese classes as a communication, using a distance, distance education

## Ⅰ. はじめに

留学生センターでは、テレビ会議システムを利用した日本語クラスの試行を行なっている。

本稿では、実際の教材開発とそれをまとめたマニュアルについて報告を行なう。

## Ⅱ. マニュアルより

(「テレビ会議システムを利用した日本語クラスのマニュアル」 pp. 1~10, 一部抜粋)

### 1) テレビ会議システムについて

新潟大学で利用しているテレビ会議システムは、モニタ・コーデック・マイク・スピーカー等が、システム化されたものです。

3本のISDN回線を利用して、旭町キャンパスと五十嵐キャンパスをつなぎ、音声と映像による双方向のコミュニケーションを可能にしています。

簡単なイメージで言うと、テレビ電話の大きいものを想像していただくとわかりやすいです。

なお、3本のISDN回線は、1本は、旭町キャンパスから五十嵐キャンパスへ、1本は、五十嵐キャンパスから旭町キャンパスへと音声や映像を送るものです。もう1本の回線は、予備のものです。

音声は、少しタイムラグがありますが、操作方法は、SCSよりずっと簡便で、だれにでも簡単にできます。

テレビ会議システムを利用して、次のようなことができます。

- ① ミュート (消音): ミュートのボタンを押すと相手側の音声が聞こえなくなります。

② 静止画：静止画のボタンを押すと相手側の画像は静止画になります。

③ カメラの操作

- ・ ズーム：相手側の画面も自分側の画面も両方、ズームにすることができます。
- ・ 角度：角度もズームと同じように、相手側も自分側もどちらも、変えることができます。
- ・ カメラの主導権：旭町キャンパスにも五十嵐キャンパスにも、このリモコンがあるので、両キャンパスから、カメラのズームや角度を変えたりすることができます。つまり、カメラの主導権を争うことも可能です。

④子画面：ディスプレイには、子画面が映り、自分側の様子をモニターすることができます。この子画面は消すこともできます。

## 2) 具体的な授業活用例

ここでは、従来の遠隔授業のためのテレビ会議システムの利用方法ではなく、「距離」の存在を利用して、双方向でおこなう語学の授業について説明いたします。なお、授業時間は、すべて、60分を想定しています。以下の授業例は、すべて、実際にテレビ会議を接続して、模擬授業としておこなったものです。授業の状況などを、ビデオで録画していますので、興味のある方は、足立までご連絡ください。

### 授業例①「他己紹介」

対象学生：初級～中級レベル（キャンパス間はレベルが異なっても問題ないが、一つのキャンパスでは、同じレベルのほうがいい。）

学習目標：①学習者間で必要な情報をとる。

②自分の友だちを他人に紹介する。

③聞き取れなかった場合、もう一度聞き返す。また、聞き返し方のバリエーションを学習する。

授業形態：

二人の教師が旭町キャンパス、五十嵐キャンパスに一人ずつわかれてテレビ会議システムを操作する。二人の教師の役割は対等。学生にさまざまな語学的アドバ

イスを与えなければ成らないので、TA（指導助手）では、勤まらない。

授業の手順：

1. [準備]

まだ、接続していない状態で、教師が、各キャンパスの学生たちに、活動の手順について説明する。

2. ⇄ [接続]

両方のキャンパスを接続し、参加者全員が、名前、所属、出身国についてだけ、自己紹介を行なう。

3. stop [ミュート/静止画]

画面を静止画およびミュート（消音）にして、相手側の声や画像を止める。

学生たちの座る順番を変えて、そのあとで、各学生は、隣の人から、以下の情報をとる。

① 好きな食べ物または、スポーツは何か。

② どうしてその食べ物または、スポーツが好きなのか。

③ 先週の日曜日、何をしたか。

この際、教師は、学生の日本語レベルに合わせて、さまざまな手助けを行なう。具体的には、質問のしかた、また、紹介の方法など。時には、英語を使って作業の内容について説明する。

4. ⇄ [接続]

両方のキャンパスをまた、接続状態に戻す。各キャンパス、交替で、学生たちが、一人ずつ、先ほど、質問したことについて、自分の友だちを紹介する形式で、相手側のキャンパスの学生に向かって説明する。相手側の学生たちは、紹介された人物が誰なのかを、当てる。

5. stop [終了]

テレビ会議システムを終了させる。各教師は、もう一度、学生たちに今日学習した項目の復習およびフィードバックを行なう。

### 授業例②「会話文完成タスク」

対象学生：初級～中級レベル（全員が同じぐらいのレベルがいい。）

学習目標：①相手の日本語を聞き取って書く。

②会話文全体を予測する。

③聞き取れなかった場合、もう一度聞き返す。また、聞き返し方のバリエーションを学習する。

授業形態：

二人の教師が旭町キャンパス、五十嵐キャンパスに一人ずつわかれてテレビ会議システムを操作する。二人の教師の役割は対等。学生にさまざまな語学的アドバイスを与えなければ成らないので、TA（指導助手）では、勤まらない。

授業の手順：

1. ⇨ [接続]

両方のキャンパスを接続し、参加者全員が、名前、所属、出身国などについて、自己紹介を行なう。

2. stop [ミュート/静止画]

画面を静止画およびミュート（消音）にして、相手側の声や画像を止める。教師は、学生たちに、活動の手順について説明する。その後で、教師は、例1のようなプリントを学生たちに配る。

プリントは、両方のキャンパスのものが組み合わさって成り立っている会話文である。

教師は、会話文にある語彙や表現の意味の確認を行ない、必要ならば、適宜説明をする。その後、学生たちは、各自、読む練習をする。教師は、援助の必要な学生の手助けを行なう。

3. ⇨ [接続]

両方のキャンパスをまた、接続状態に戻す。各キャンパス、交替で、自分のプリントの会話文を読む。もう一方のキャンパスの学生たちは、全員で、読みあがれた会話文を聞き取り、空欄に書き込む。全員で相談しながら、書いていく。

4. ⇨ [接続]

完成した会話文を利用して、全員でロールプレイを行なう。各キャンパス、一人ずつ、代表してロールプレイをする。

5. stop [終了]

テレビ会議システムを終了させる。各教師は、もう一度、学生たちに今日学習した項目の復習およびフィードバックを行なう。また、質問も適宜受けつける。

具体的な会話例：(旭町キャンパスに配るプリント)

A：ねえ、Bさん、外国語の勉強は目でするほうですか。耳でするほうですか。

B：( )。

A：ああ、わたしも目からですね。文字がないとおちつかなくて。

B：( )。

A：ええ。やっぱり、耳からおぼえてしまう人の発音には、かないませんね。

具体的な会話例：(五十嵐キャンパスに配るプリント)

A：( )。

B：ああ、わたしは、どちらかというと、目からですね。

A：( )。

B：そうなんですよね。わたしも、聞いておぼえるのは、苦手なんです。

だから、どうも発音には、自信がなくて・・・

A：( )。

### 授業例③「日本語ジグソーパズル」

対象学生：初級～中級レベル（全員が同じぐらいのレベルがいい。）

学習目標：①相手の日本語を聞き取る。

②一つの文の構成を理解する。

③談話レベルの構成を理解し、文章を組み立てる。

授業形態：

どちらかのキャンパスに一人の教師がいるだけで授業ができる。教師のいないキャンパスは、TA（指導助手）もしくは、テレビ会議システムを操作できる者がいればいい。テレビ会議システムは、ずっと接続したままで授業を進める。

授業の手順：

1. ⇨ [接続]

両方のキャンパスを接続し、参加者全員が、名前、所

属、出身国などについて、自己紹介を行なう。教師は、両方のキャンパスの進行役となる。

2. ⇔ [接続]

教師は、全員に活動の手順を説明する。

各学生にあらかじめ用意されたカードを渡す。

カードに書かれてある内容は、一文を文節ごとに区切った単語である。

3. ⇔ [接続]

学生たちは、ひとりずつ、渡されたカードを読みあげていく。

全員で、順番がばらばらになっている単語を、相談して並び替えて、一文に完成させる。この作業をくりかえし、すべてのカードの一文を完成させる。

4. ⇔ [接続]

次に、完成された一文を組み合わせて、まとまった文章になるよう全員で考える。教師は、主導権をとらずに、できるだけ、学生の相談にまかせる。

ただし、適宜、ヒントを与えるようにする。

5. ⇔ [接続]

まとまった文章にできたら、全員で読みながら確認をする。

この段階で、語句や表現の意味について、教師は、少し説明を入れる。

学生たちに質問がないかどうかを確かめて、授業を終える。

#### **授業例④「歌（ブランクに書き込む）」**

1. ⇔ [接続]

両方のキャンパスを接続し、参加者全員が、名前、所属、出身国などについて、自己紹介を行なう。

2. ⇔ [接続]

教師は、全員に活動の手順を説明する。

各学生にあらかじめ用意されたカードを渡す。

カードに書かれてある内容は、一文を文節ごとに区切った単語である。

3. ⇔ [接続]

学生たちは、ひとりずつ、渡されたカードを読みあげていく。

全員で、順番がばらばらになっている単語を、相談して並び替えて、一文に完成させる。この作業をくりか

えし、すべてのカードの一文を完成させる。

4. ⇔ [接続]

次に、完成された一文を組み合わせて、まとまった文章になるよう全員で考える。教師は、主導権をとらずに、できるだけ、学生の相談にまかせる。

ただし、適宜、ヒントを与えるようにする。

5. ⇔ [接続]

まとまった文章にできたら、全員で読みながら確認をする。

この段階で、語句や表現の意味について、教師は、少し説明を入れる。

学生たちに質問がないかどうかを確かめて、授業を終える。

### **Ⅲ. 「距離」を利用したコミュニケーションについて**

テレビ会議システムを使った日本語クラスを通して以下のようなことがわかった。

#### **1. 二つの教室間のコミュニケーション**

- ・二つの教室の間に存在する距離、すなわちテレビ画面の存在は教室間のコミュニケーションを、一つの独立した教室内のコミュニケーションに比べて幾分フォーマルで晴れがましいものにする。
- ・画面の操作に慣れ、相手との距離が縮まるにつれて、テレビ画面を通じて隣の教室とやりとりをしているような、同じ場を共有しているような感覚を持つことがある。

#### **2. 各教室の独立したコミュニケーション**

- ・教室間のコミュニケーションにリラックスした雰囲気がある。この状態を、準備の場やフィードバックの場として活用することが可能である。

このような「距離」を利用して、教師がさまざまな工夫をすることで、授業にほどよい緊張感を持続させながら授業を進行させることができる。また、ふだんの教室活動では、学生がなかなか自分自身の日本語について意識する機会がない。しかし、テレビ会議システ

ムを利用すると、テレビの子画面に自分の話している様子が写るので、これを利用して学生が自分自身の日本語を確認することもできる。

#### IV. 具体的な留意点やヒント

##### 【機械操作上の留意点】

1. クラスを円滑に進めるために、消音やカメラズームなど、教師や学生が機械操作に慣れなければならない。
2. カメラとモニターの配置に注意をしなければならない。配置が適切でないとモニター画面の目線がずれてしまって不自然になる。
3. 室内蛍光灯の光の加減でリモコン操作がうまくできない場合がある。

##### 【教師の留意点】

1. 学生たちの自主性を高めるため、できるだけ学生同士でコミュニケーションをとるように促すように努め、教師が学生たちの発言を先取りしない。
2. テレビ会議システムをつないだり静止画像にすることで、クラスの流れが合同の一つのクラスと独立下クラスにスイッチングするので、教師は授業計画を綿密にたて、十分把握しておかなければならない。
3. 教師同士の簡単な合図を決めておく。

##### 【その他の留意点】

1. 試行クラスを行なった経験から言えば、クラスの進めやすい人数は、各5名程度である。また、相互コミュニケーションを図るためには、二つのクラスの人数が同数であるほうがいい。
2. 教師たちは、通常の授業と異なった工夫や計画の立て方が必要になる。また、ティームティーチングの性格上、教師間の打ち合わせも必要となり、授業準備には通常の授業以上の時間が必要である。

#### V. 今後の課題

テレビ会議システムに限らず、遠隔授業を想定した場合、SCSなど器材依存の率が高くなってくる。当然、教員の器材操作の技術も問題になってくる。しかし、今回日本語クラスを試行して、器材依存を前提に、

いかに内容の深いクラスを設計するかが重要であると感じた。ありきたりなことではあるが、教員がさまざまな授業に対する工夫や試行および授業分析・改善を行なうことが遠隔授業ではさらに重要なポイントとなる。

今後の課題としては、他大学とテレビ会議システムを利用して日本語運用力を高める授業内容を開発することと、安定した遠隔授業ができるようにある一定の方法を提案することを目標とする。

#### 参考文献

足立祐子・押谷祐子・大藤美帆(2000)「テレビ会議システムを使った日本語クラスの活動」平成11年度日本語教育学会秋季大会予稿集 pp. 69-74

加藤直樹(1998)「テレビ会議システムを用いた遠隔授業の評価」『日本教育情報学会教育情報研究』Vol. 14 No. 2

才田いずみ(1997)「ネットワーク通信の日本語教育への導入」『1996年度東北大学文学部研究年報』第46号